



スピリチュアルケアの可能性

□オンライン開催
死生学研究所ホームページから
お申込みください

□お申込み締め切り
2021年9月22日(水) 17時

□先着 100名様

□お問合せ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp □参加費 無料

第4回連続講座

9月25日(土)

16:20-17:50

■プロフィール

本学人間科学部教授(臨床心理学)。1995年愛知学院大学文学部心理学科卒業。1997年新潟大学大学院教育学研究科修士課程(学校教育専攻障害児教育コース)修了。2003年東京都立大学大学院都市科学研究科博士課程(都市社会システム系)修了。生きがいの地域差の実証研究にて博士(都市科学)を取得。臨床心理士、公認心理師、指導催眠士、臨床動作士、臨床心理学の中でも短期的に効率的な心理療法の実践を目指すブリーフサイコセラピーを専門としている。日本催眠医学心理学会 常任理事 編集委員長、企画・教育委員、会則改定委員、日本心理諸学会連合 心理学検定検定局 検定局員、日本ブリーフサイコセラピー学会 理事 学術委員。

■主要業績

パワハラ・トラウマに対する短期心理療法—ブリーフセラピー・臨床動作法・NLPの理解と実際—(共編)(2019 春風社)「ブリーフサイコセラピー研究」の動向と提案(共著)ブリーフサイコセラピー研究(2010)高齢者における地域別にみた「生きがい」の実証研究 東京都立大学博士学位提出論文(2003)

長谷川明弘

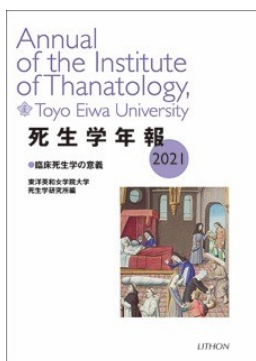
(はせがわあきひろ) 本学人間科学部教授

「生きがい」ならびに「ikigai」研究の動向と スピリチュアルケアの可能性

内容紹介：

生きがいは、2010年半ば以降に海外から注目されています。日本では、1966年に発刊された神谷美恵子による「生きがいについて」を契機として生きがいが注目されるようになりました。神谷は「生きがい」という表現の中には、もっと具体的、生活的なふくらみがあることを指摘しています。神谷は「生きがい」を「生きがい」の源泉、または対象となるものを指している場合と、「生きがい」を感じている精神状態を意味するときの2つの要素に分けて考えていました。その根底には次の7つの欲求、すなわち①生存充実感への欲求、②変化への欲求、③未来性への欲求、④反響への欲求、⑤自由への欲求、⑥自己実現への欲求、⑦意味と価値への欲求があると論じていました。

生きがいの研究の動向を紹介しながらスピリチュアルケアの可能性を探究し、時間が許せば私が取り組んでいる生きがいの向上を目指した試みについて体験してもらおう機会を設けて、生きがいを考えるときにしたいと思います。



東洋英和女学院大学死生学研究所編 死生学年報2021

臨床死生学の意義

◆書店にて定価2,500円+税でご注文、ご購入いただけます。
◆お問い合わせ先 東洋英和女学院大学 死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

<予告>

◇10月23日(土) 14:40~18:00

「生と死」研究会・国際宗教研究所共催 シンポジウム

「コロナ禍における死生学の課題」

裏面参照

お申込み



死生学研究所からのお知らせ

10月23日(土)は、「生と死」研究会・国際宗教学研究所共催によるシンポジウムを開催いたします。

テーマ：「コロナ禍における死生学の課題」

司会：奥山倫明（本学人間科学部教授）

講演1. 佐藤泰子（京都大学大学院人間・環境学研究科研究員）

「妖怪人間ベムはなぜ人間になりたかったのか
—「死」からはじまる「生きる意味」と間（あわい）—」

講演2. 新村秀人（本学人間科学部教授）

「精神医学から見たコロナ禍と死生学の課題」

コメンテーター

藤本拓也

（金光教国際センター次長・宗教学専攻）

佐藤啓介

（上智大学大学院実践宗教学研究科教授・死生学専攻）

10月4日から
死生学研究所
ホームページに
てお申込み受付
開始予定です。